

奈良県 令和3年度「県民 Web アンケート」 「食品ロス削減の推進に関するアンケート調査」のポイント

令和3年12月、奈良県より「食品ロス削減の推進に関するアンケート調査」の結果が公表されました。食品ロスの問題については、9割以上の人々が「知っている」と回答していますが、食品ロス削減の推進においては、県や市町村、消費者、食品関連事業者などが連携して取り組むことが求められています。

1. 調査の概要

目的	令和元年10月1日の「食品ロスの削減の推進に関する法律」施行に伴い、奈良県では令和3年4月に「奈良県食品ロス削減推進計画」を施行し、食品ロス削減の推進に取り組むなか、今後の食品ロス削減に向けた施策に活かすため。
実施期間	令和3年10月27日～令和3年11月2日
対象	応募者の中から、奈良県内在住の満18歳以上で電子メールアドレスを持ち、日本語で電子メールの送受信を行うことができる者として確認された268名。
方式	インターネットによるアンケート調査
有効回答数	229件（有効回答率：85.4%）
事務局	奈良県 食と農の振興部 豊かな食と農の振興課

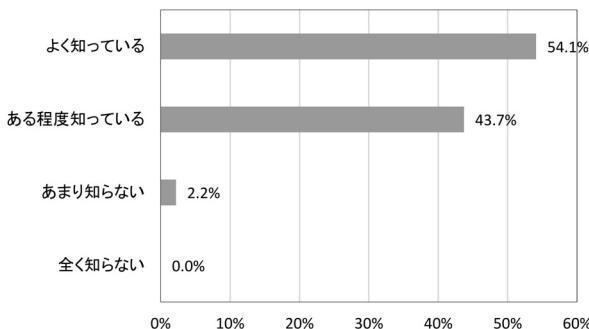
2. 調査の結果（一部抜粋）

（1）「食品ロス」の問題の認知度

「食品ロス」とは、本来食べられるにもかかわらず、食品の生産・製造、流通、販売、消費の各段階において、日常的に捨てられる食べ物のことで、食料資源の浪費や環境への負荷などの観点から問題となっている。

「食品ロス」が問題となっていることを知っているか聞いたところ、「よく知っている」は54.1%、「ある程度知っている」は43.7%で、合わせて9割以上の人々が「知っている」と回答している（図表1）。

図表1：「食品ロス」の問題について



出典：奈良県「令和3年度『県民 Web アンケート』第9回 食品ロス削減の推進に関するアンケート調査」を当研究所にて一部加工（以下同じ）

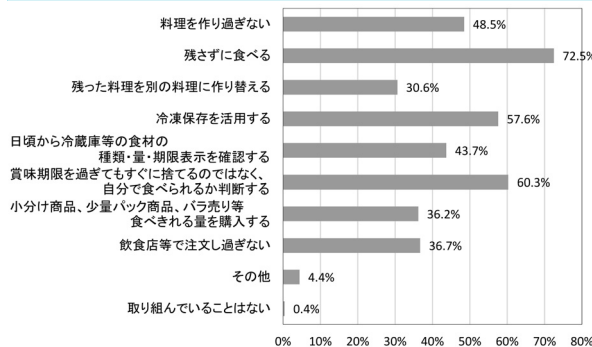
（2）「食品ロス」を減らすための取組み

「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについて内容別（複数回答）にみると、「残さずに食べる」が72.5%と最も高くなっており、以下「賞味期限※1を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が60.3%、「冷凍保存を活用する」が57.6%、「料理を作り過ぎない」が48.5%の順となっている（図表2）。

また、「スーパーやコンビニで買い物する時に、手前のものから取るようにしている」、「野菜を切る時になるべく捨てる部位の出ないように気を付けて切る」との意見もあった。

※1 賞味期限…開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときにおいしく食べられる期限のこと。これを過ぎてもすぐに食べられなくなるというわけではない。

図表2：「食品ロス」を減らすための取組み（複数回答）



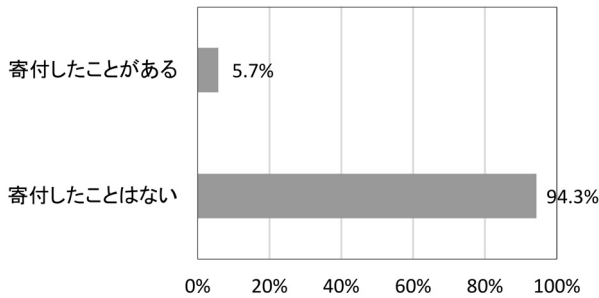
（3）フードバンク活動を行う団体やフードドライブへの食品の寄付

フードバンク活動※2を行う団体またはフードドライブ※3への食品の寄付について聞いたところ、「寄付したことはない」が94.3%、「寄付したことがある」が5.7%となっている（図表3）。

※2 フードバンク活動…まだ食べられるのに様々な理由で処分されてしまう食品を受け取り、こども食堂や社会福祉施設など、食品を必要とする団体に届ける活動のこと。

※3 フードドライブ…家庭では使い切れない食品をフードバンク団体に提供するために持ち寄る取組みのこと。

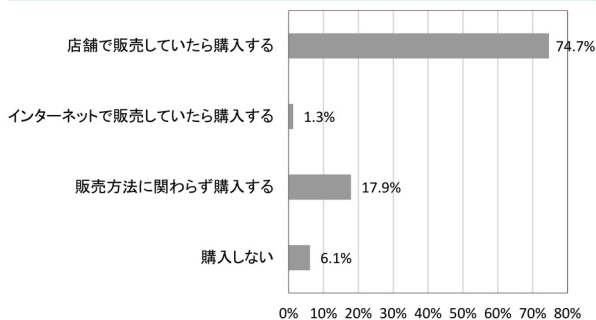
図表3：フードバンク活動を行う団体またはフードドライブへの食品の寄付



(4) 賞味期限の近い食品の値引き販売

賞味期限の近い食品が値引き販売されていたら購入するか聞いたところ、「店舗で販売していたら購入する」が74.7%と最も高くなっており、以下「販売方法に関わらず購入する」が17.9%、「購入しない」が6.1%、「インターネットで販売していたら購入する」が1.3%の順となっている(図表4)。

図表4：賞味期限の近い食品が値引き販売されていたら購入するか

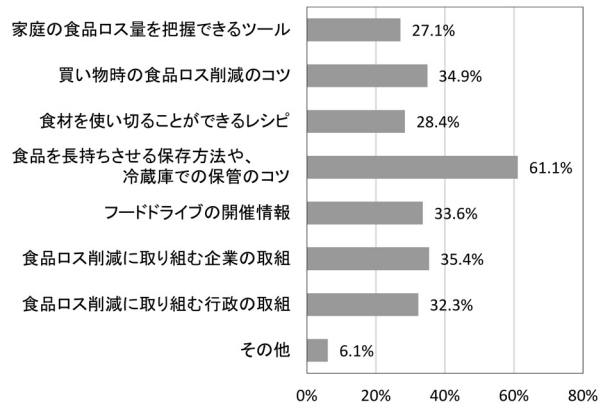


(5) 食品ロス削減への取組みのための情報

今後、食品ロス削減に取り組んでいくために、知りたい情報はるか聞いたところ(複数回答)、「食品を長持ちさせる保存方法や、冷蔵庫での保管のコツ」が61.1%と最も高くなっており、以下「食品ロス削減に取り組む企業の取組」が35.4%、「買い物時の食品ロス削減のコツ」が34.9%、「フードドライブの開催情報」が33.6%の順となっている(図表5)。

また、「食品ロス削減のために割引価格で提供してくれる飲食店があれば、積極的に活用したい」との意見もあった。

図表5：食品ロス削減への取組みのために知りたい情報(複数回答)



食品ロスの問題については、SDGs^{※4}で言及されるなど国際的にも重要な課題となっており、世界には栄養不足の状態にある人々が多数いるなか、食料の多くを輸入に依存している日本としても真摯に取り組むべき課題である。また、食品ロスの削減により、焼却処理に伴うCO₂排出量の削減による気候変動の抑制が図られ、地球環境への配慮につながるとされている。

※4 SDGs…「持続可能な開発目標」の略で、国連で採択された「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた目標のこと。

調査結果によると、全体の約9割以上が「食品ロス」の問題を「知っている」と回答しており、奈良県内での認知度はかなり高まっている。食品ロス削減の推進においては、県や市町村による普及啓発や支援のもと、消費者が使い切れる食材や量を踏まえた適切な消費行動を実践し、食品関連事業者が過剰在庫の防止や未利用食品の有効活用に努めるなど、各主体が連携して取り組むことが求められている。

(大橋 徹)